

平成25年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本年度の5つの重点課題のうち、学習活動では昨年度より継続して「自ら学ぶ学習態度の育成とわかる授業の推進、基礎学力の定着」を目指し、互見授業や授業アンケートの実施および基礎計算力テストに目標値を設定するなど、様々な方策を試みた。資格取得ではリスニング英語検定や専門学科関連の資格、免許取得に良い成績を残し着実な学習の成果が得られた。特に全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰をゴールド8名（昨年度6名）、シルバー29名（同14名）が受賞した。互見授業については、指定研究授業が2回あったことで、実施率は大きく伸びた。しかし、授業評価の実施率は低い状態である。教員が教科内での連携にとどまらず、学校全体で情報交換しながら今後ともより授業改善につながる方法を検討していくことが必要である。

生徒指導では、怠惰や寝坊で遅刻を繰り返す生徒数の減少（15名以下）を目標に取り組んだ。遅刻を繰り返す生徒に対する指導を粘り強く継続したが、目標を達成できなかった。また、交通事故は昨年の15件から6件と大きく減少したが目標の5件までは達成できなかった。学校評議員会において、今後も根気強く指導を続けて欲しいと要望を受けた。

進路指導に関しては、インターンシップの満足度は高かった。また、就職試験第1次選考の内定率は93%を超え、目標を達成できた。進学は国公立大学に11名（富大6名、県立大3名、福井大1名、長岡科学技術大1名）合格することができた。

特別活動を活性化させる取り組みとしては、部活動の継続率と学校行事の充実感に対するアンケートを実施し、マナー化や形骸化しつつある部活動や学校行事の内容を見直し、改善を行った。結果、学校行事の満足度は、運動会は91%を超える高い値が得られた。また本校の最大行事である「尚美展」では、満足したと答えた生徒の割合が88%を越えた。部活動の継続率は部活動全体としては高いが、一部の部で退部する生徒が多く、部単位として改善が求められる。次年度以降も部活動の活性化と学校行事への積極的な取り組みへの意識の高揚を図り、学習と部活動、奉仕・体験活動などの特別活動を両立させるよう努めたい。PTA活動は、役員の積極的な活動が見られるが、保護者全体の活動には至っていない。

7 次年度へ向けての課題と方策

本校は、工業系の5学科と工芸科、デザイン・絵画科の芸術系2学科の合わせて7学科が設置されている。この7学科が連携し、地域のものづくりの拠点校として優れた人材を輩出すべく、学習指導、生徒指導、進路指導のより実践的な取り組みが必要となる。このため、学習指導については、互見授業を積極的にを行いさらなる授業の改善や質の向上に努めたい。また、生徒指導については、学校と家庭との情報の共有を図り、遅刻の防止や交通事故の防止などに努め高校生としての節度ある行動・態度がとれるよう人格形成に努めたい。進路指導については、インターンシップの実施により企業・地域との連携をさらに深め、早期からの望ましい勤労観・職業観の育成に努めたい。

今後とも、職員間の連携を密接にとり、達成度のみならず満足することなく、方針、計画などを検証し、積極的に課題に取り組むたい。